

ウ 防犯

- ・ビジターセンター及びトイレなどの建築物は、園路から見通しが確保された場所に設置します。
- ・ビジターセンター内のエレベーターは、扉にガラス窓を付けます。
- ・公園全体で見通しを確保します。(夜間閉鎖を想定している日本庭園及び目隠し植栽を除きます。)
- ・地域の警察(交番)とも連携を取り、さらに安全・安心パトロールを実施します。

エ 照明

防犯の視点として、夜間の適切な照度を確保するために、効果的な照明配置を行います。

照度の検討

- ・出入口、階段付近、トイレ周辺：5～30ルクス
- ・その他の場所：1～10ルクス

夜間閉鎖を想定している日本庭園などは除きます。

この基準は、深夜の時間帯及び震災発生などに伴う停電時には適用しません。

配線計画

- ・1ルートの照明灯を1基おきに配線し、2系統とします。そのうちの1系統は深夜の時間帯に消灯し節電できるようにします。

照明灯の選択

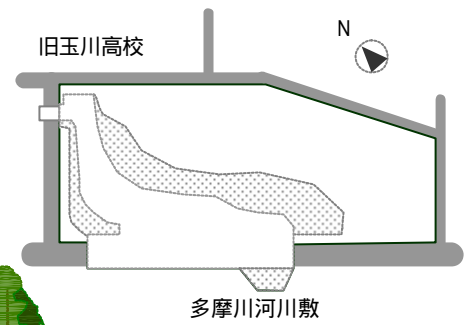
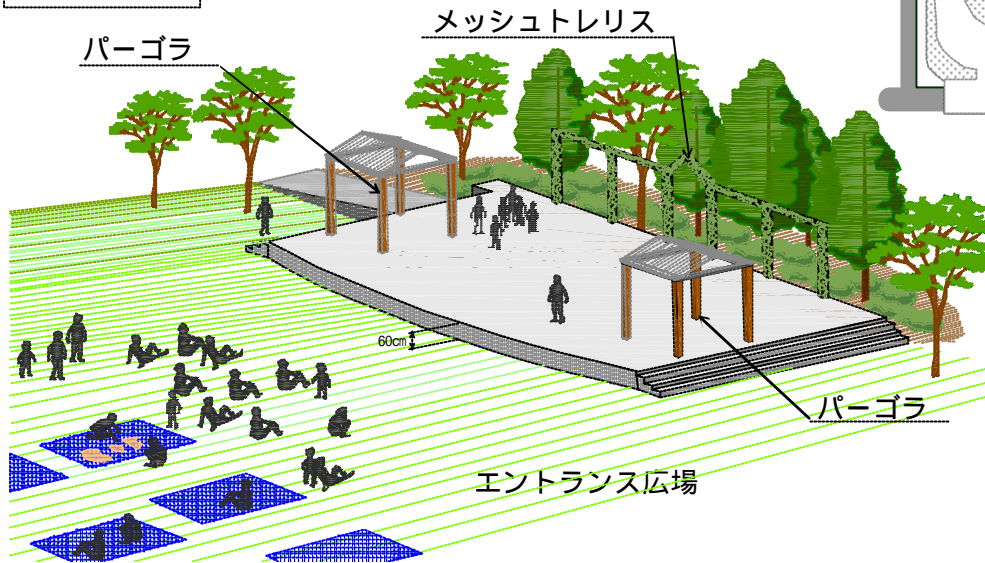
- ・耐久性や効率を考え、水銀ランプ(またはメタルハライドランプ)、LEDランプを使用します。

(2) 人々が集い・ふれあえる交流の空間づくり

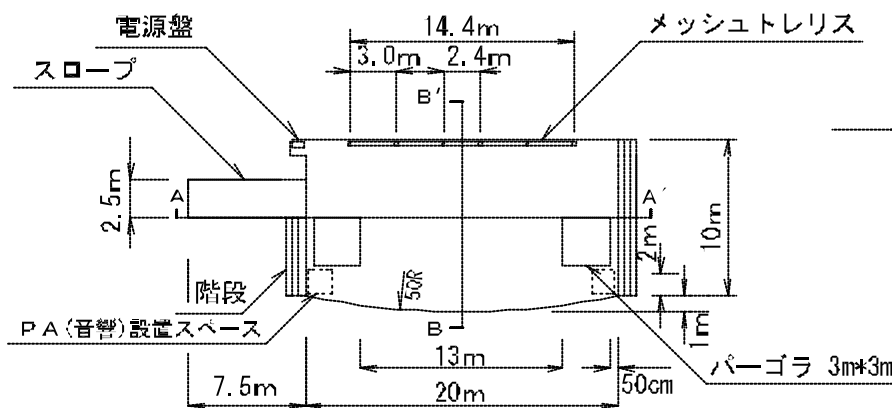
ア ステージ

- ・エントランス広場内に、地域のイベントが開催できる場所として、ステージにも利用できる場所を設けます(位置は15頁参照)。災害時には活動拠点として利用します。
- ・高さは、災害時のトラックからの荷降ろしに配慮し、60cmとします。ステージ両脇に、階段及びスロープを設置します。
- ・大きさはイベント使用時に最大120名(小学校の吹奏楽を想定)が入れるように、有効面積120㎡以上、幅20m奥行10m程度とします。
- ・イベント主催者が横断幕やパネルなどを張れるように、金網状の枠を設置します。
- ・イベント及び災害時に利用できるように、電源(20A以上)を設置します。
- ・ステージの袖に、パーゴラを設置します。

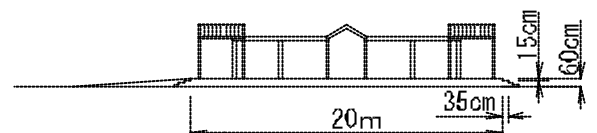
イメージ図



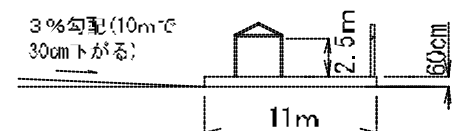
平面図



A-A' 断面



B-B' 断面



イ ビジターセンター（休憩室・防災資材倉庫）

ボランティア活動の拠点・みどりとみずの学習拠点・親子のくつろぎの場・地域のイベントの拠点・防災拠点としてビジターセンターを建築します。盛り土部分の上と下を結ぶように建築するため、3階建てとします。（16頁参照）

・内容

多目的休憩室：遊び場と一体化して利用できる場所とします。乳幼児の休憩スペースや急な降雨時の逃げ込みなど、子育て支援環境を整備します。また、地域のイベント時には、控え室として利用も可能です。

展示・打合せスペース：環境学習の拠点として、展示スペースや地元団体・NPOとの打合せスペースを設けます。また、維持活動などのボランティアや案内人、園内を巡回する担当者の控え室としても対応可能とします。

トイレ：男子用、女子用、車椅子使用者用（25頁参照）

男・女・車椅子共、ベビーチェア含む

防災資材倉庫: 150 m²程度(世田谷区広域避難場所用防災倉庫整備に伴う設置基準)

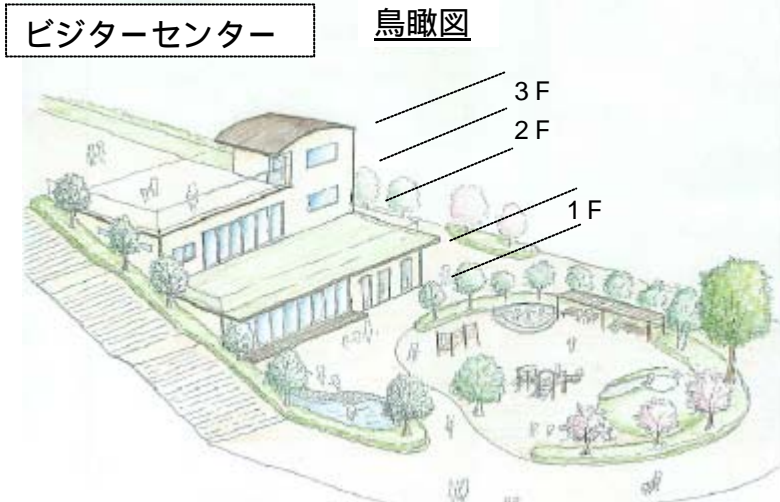
授乳室: 乳幼児の外出支援として、授乳室を設置します。

(世田谷区ユニバーサルデザイン施設整備マニュアル 公園)

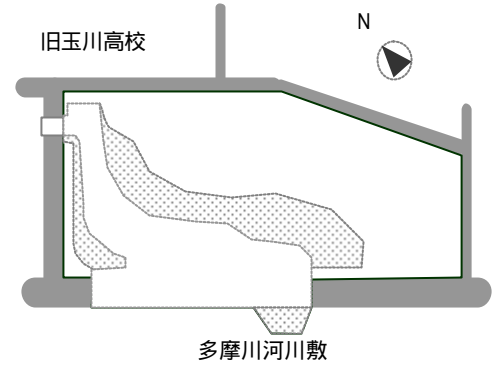
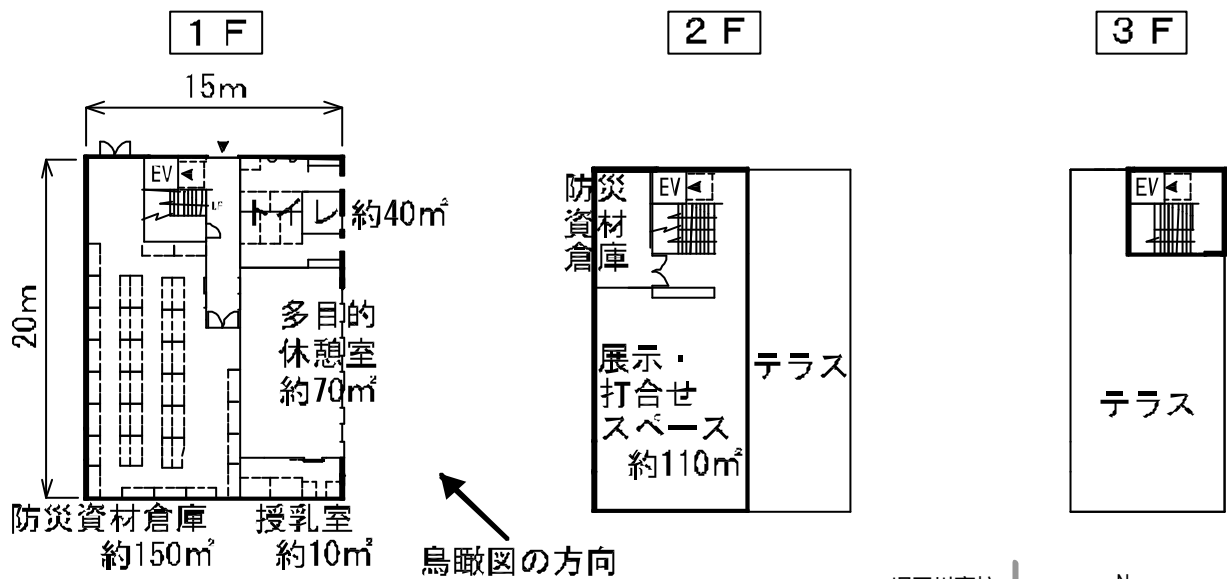
倉庫: マンホールトイレ用テント、なべ、テント、リヤカーなどの収納

その他、階段室・エレベーター・廊下を含め、延床面積を500 m²程度とします。

- ・室内照明はLEDなどを、屋根にはソーラー発電や屋上緑化を検討します。
- ・屋根の雨水利用(雨水貯留タンク)を推進します。

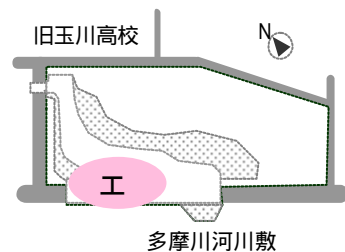


ビジターセンター平面図



ウ 売店(候補地)

- ・将来、売店を設置する必要が出た場合のために、スペースを公園内に確保します。(場所は未定)



エ 住民花壇

- ・住民が花づくりをするための花壇を設置します。
- ・水やりのために、散水栓を設置します。



花づくりのイメージ

(本公園計画地内の仮設花壇)

(3) みどりとみずをつなぐネットワークづくり

ア 植栽

樹種の選定

- ・周辺の植生(国分寺崖線の雑木や多摩川の桜)に合わせた多様な樹種を選定します。

雑木 クヌギ・コナラ・アカシデなど

桜 花を長い期間楽しめるように、様々な品種(ヒガンザクラ・ヤエザクラ・オオシマザクラ・ヤマザクラなど)を選定します。

周辺に見られる木 ハナミズキ

- ・ユニバーサルデザインに配慮します。(香りを楽しむ樹種、フジ・クちなシ・ジンチョウゲ・ロウバイ・柑橘類など)
- ・防災のために防火効果のある常緑樹を、公園の外周に植栽します。(クロガネモチ・ヤマモモ・モッコク・トベラなど)
- ・低木は防犯に配慮し、高く伸びない樹種や、成長が旺盛でも刈り込みに耐えうる樹種を選定します。
- ・四季を感じ、鳥や昆虫が来て多様な自然環境が創出できる様々な樹種を選定します。(鳥 実のなる木、昆虫 蝶が蜜を吸いに来るアベリア・蝶の幼虫の食草となる植物・カブトムシが来るクヌギなど)
- ・日本古来の樹種を中心とします。
- ・斜面地は武蔵野の雑木林の再現として、里山の雰囲気を持った植栽とします。

既存樹木の活用

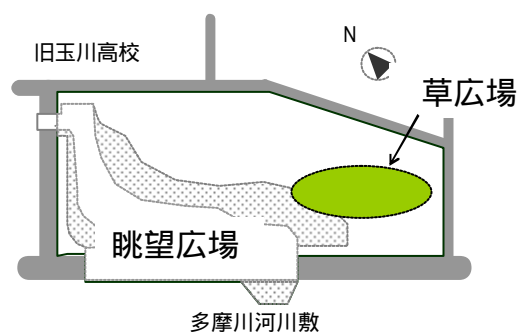
- ・隣接する再開発エリア内など、この地で育ってきた樹木を活用します。
- ・樹形が良く大きいものは、単木でシンボルツリーとして移植します。
- ・その他のものは、樹林地としてまとめて移植します。

イ 草広場

- ・活発な活動ができるよう、また、経済性や維持管理を考慮し、ノシバとします。雑草が混入しても、刈り込むことにより良好な草地に遷移していきます。

ウ 眺望広場

- ・富士山や丹沢山系などの山並み、国分寺崖線の連続するみどり、開放的な多摩川を眺望することのできる広場を、盛り土上部に設けます。
- ・ベンチや解説板を設置します。



花 曆

月

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12



ロウバイ



コブシ



ミツマタ



サンシュユ



北ガザクラ



アセビ



ソメイヨシノ



ヤザクラ



ヤマブキ



ハナミズキ



エゴノキ



アジサイ



ナツツバキ



クチナシ



サルスベリ



ヤマモモ(実)



キンモクセイ



コナラ(実)



カツラ(紅葉)



モミジ(紅葉)

(4) 憩いと健康の空間づくり

ア 日本庭園

日本庭園のコンセプト

本庭園は、周辺の大自然(国分寺崖線、多摩川など)、中自然((仮称)二子玉川公園)、小自然(庭園)の全体的連続性と一体性に配慮しつつ、『市民福祉』『環境共生』『文化・教育』の3点を基本テーマとした日本的空間文化の創造を目指します。

また、「グローバル社会を生きる世田谷の子どもの伝統文化の体験場」、「区民による文化活動の中心的な役割を担う場」として、日本の空間文化を受け継ぎ、未来へ伝承するよう、次のようなコンセプトを設定しました。

日本の空間文化の創造と伝承

コンセプトの展開

『市民福祉』の観点からの創造と伝承

だれもが快適に日本の空間文化を楽しめるユニバーサルデザインを基調とした新しいタイプの日本庭園を整備します。

- ・ 植栽や意匠を工夫した五感で楽しめる庭園空間を確保します。
- ・ レイズドベッド(下図参照)や水流の音を楽しむ場の設置など、だれもが参加できる庭園利用の施設とプログラムを作成します。

『環境共生』の観点からの創造と伝承

京都の庭、江戸の庭ではなく、世田谷の風土を活かした人と生き物が快適に過ごすことができ、関わり、共生する“世田谷・武蔵野の庭”を整備します。

- ・ 国分寺崖線や多摩川と連携する空間の創出(大自然の活用)
- ・ 公園の植栽と一体感のあるみどり溢れる空間の創出(連続性のある中自然)
- ・ 人と自然が関わる階層性のある空間「山里庭」の形成(質の高い小自然)

『文化・教育』の観点からの創造と伝承

日本庭園は、日本の自然観や風景観が凝縮しており、環境学習の場としての効果も大きいことから、質の高い教育を支え、自然や文化を体験できる場を整備します。

- ・ 日本文化を理解し、伝統を学べる日本庭園の創出
- ・ 郷土の文化、風物伝承など日本文化の教材の提供と年中行事の企画
- ・ 武蔵野の里山、多摩川の自然を学ぶ環境教育の場の創出

< 日本庭園模型 >



< レイズドベッド >

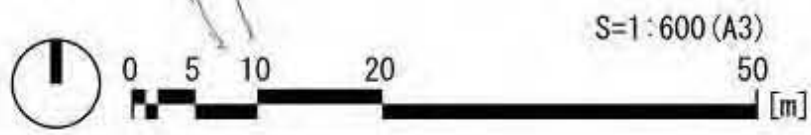


庭園整備図



主要構成要素

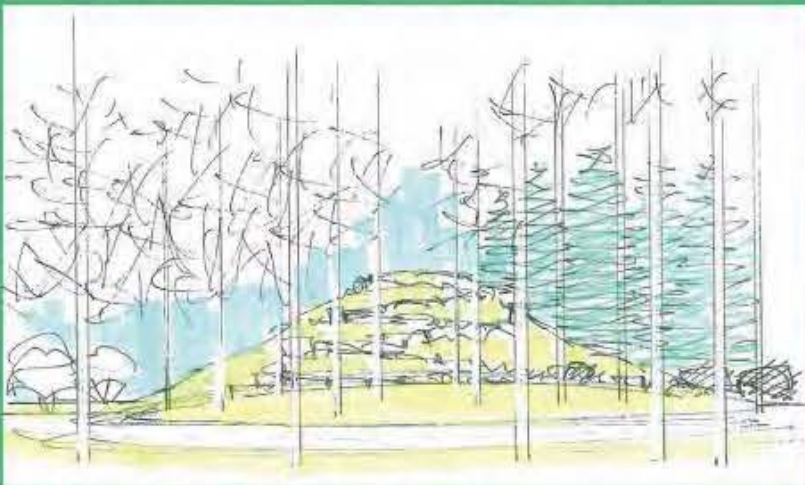
- 緑：「崖線」「奥多摩」
- 水：「奥多摩湧水」「流れ」「瀑布滝」「多摩川」
- 眺望：「二子玉川富士(富士見台)」「富士塚」「大山塚」
- 逍遙：「東屋」「向月台」「二子坂」



「山」エリア



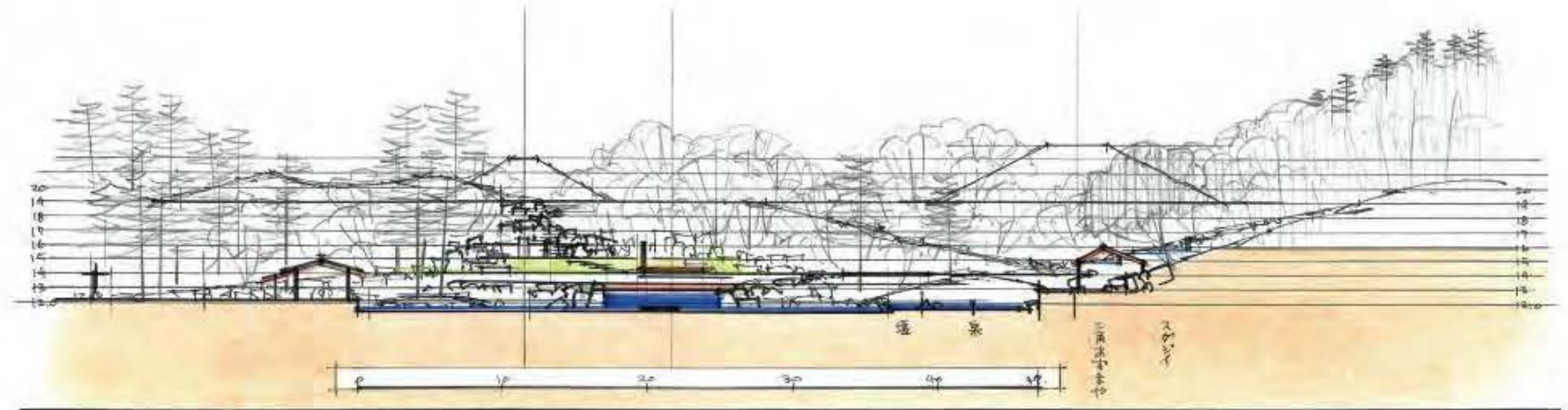
① (仮称)山門と二子玉川富士を望む



② 二子玉川富士 (富士見台)



③ 二子坂の視点場より里エリアを望む



正面図① パノラマで斜面を望む

「里」エリア



④ 斜面の流れと滝を望む

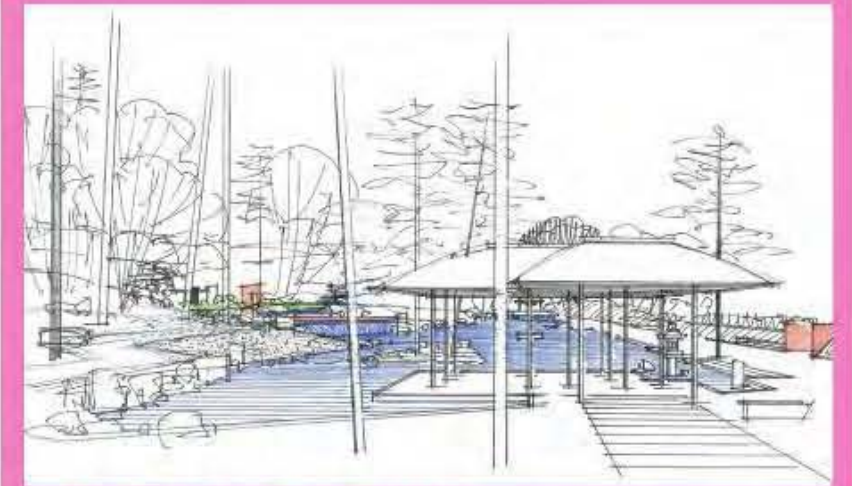


⑤ 東屋の脇から二子玉川富士を望む

「庭」エリア



⑥ 庭園南より東側汀線を望む



⑦ 庭エリアを一望する

イ 休憩場所

- ・園内には必要箇所ベンチやテーブルを設置し、緑陰のない箇所にはパーゴラで日除けをします。
- ・配置する空間の特性に応じ背なしベンチ、背ありベンチ、ピクニックテーブル、縁台ベンチ、かまどベンチ、スツールなどを配置します。
- ・耐久性の高いものとし、部品の交換が容易なものを選定します。



テーブルとベンチ



スツール（お散歩ベンチ）



縁台



パーゴラ（日除け）とベンチ

ウ 健康施設

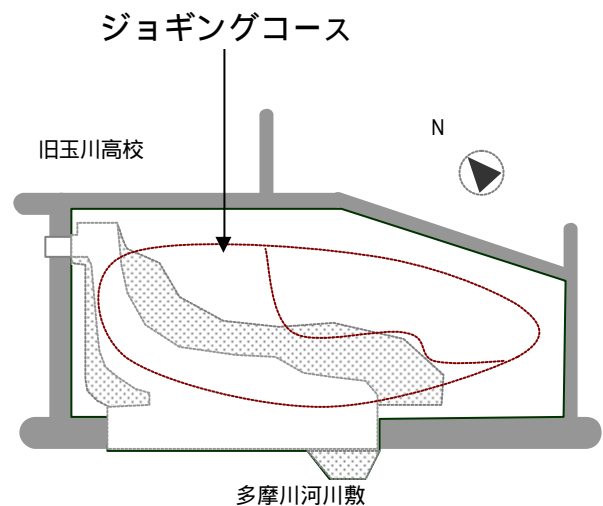
- ・健康広場には、様々なタイプの健康遊具を利用しやすい配置に設置します。
- ・ジョギングしても歩行者が危険でないように、主園路は幅6m以上とします。



背伸ばしベンチ

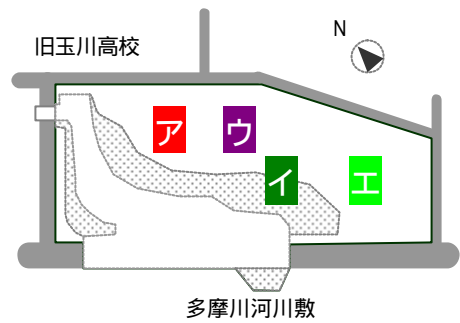


腹筋ベンチ



(5) 子どもがのびのびと遊べる空間づくり

子どもが遊べる空間として、**ア**ビジターセンターに隣接した遊び場、**イ**斜面地に隣接した遊び場、**ウ**ボール遊びのできる子ども広場、**エ**のびのびと遊べる草広場を整備します。



ア 遊び場 - 1 (ビジターセンターに隣接した遊び場)

- ・遊具、水遊び場、草地の築山、花壇を配置し、ユニバーサルデザインに配慮します。
- ・遊具として複合遊具、ロッキング遊具、クライミング遊具、砂場などを設置します。
- ・ビジターセンターと一体的な利用ができるように配置を工夫します。
- ・水景施設の水は、衛生面での安全を確保します。
- ・遊具は耐久性の高いものとし、維持部品が容易に手に入るものを選定します。



複合遊具



クライミング遊具



ロッキング遊具

(写真はイメージです)

イ 遊び場 - 2 (斜面地に隣接した遊び場)

- ・遊具、土広場、草地の斜面を配置し、ユニバーサルデザインに配慮します。
- ・遊具として斜面を利用したすべり台、ターザンロープなどを設置します。
- ・自然を活かし自分で工夫して遊べる場として、土の広場(どろ遊び)、樹木(木登り)を効果的に配置します。
- ・遊具は耐久性の高いものとし、維持部品が容易に手に入るものを選定します。



斜面を利用したすべり台



樹木を利用した吊橋

ウ 子ども広場

- ・やわらかいボールでのキャッチボールやボールけりができる広場を整備します。
- ・広場の周囲を植栽で囲い、広場の範囲を明確にします。
- ・ゲートボールの利用も想定しダスト舗装とします。色彩は周囲に調和したものを選択します。勾配は水勾配（1～1.5%）とします。

エ 草広場

- ・鬼ごっこやバドミントンなど、子どもがのびのびと遊べる広場を整備します。
- ・多様な草地とし、エリアを区切りきれいに草刈がされている場所と、バッタなどの虫取りができる、ある程度草を生やす場所などを設けます。

遊び場共通事項

- ・遊び場は一般公園利用者から見渡せるように設置します。
- ・遊び場の近傍に保護者が子どもを見守るためのベンチ、緑陰空間を設置します。

（6）その他の施設

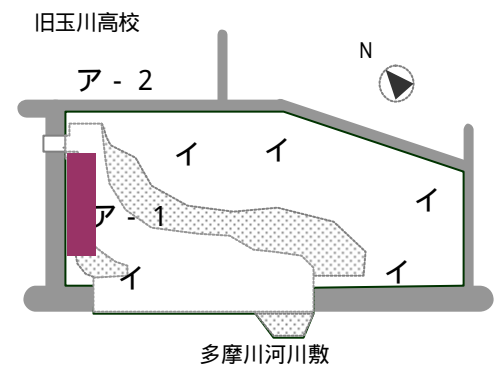
ア 駐車場

- ・台数：60台（内 身障者用2台）（日本観光協会観光計画の手引きに基づき算出）ア-1
- ・身障者用の臨時駐車場を2台確保します。ア-2
- ・近隣への配慮として、駐車場と道路の間や駐車場脇の擁壁に植栽（樹液の少ない樹種を選択）をします。

イ 自転車置き場

- ・各入口付近、子ども広場近傍に設置します。
- ・平置き（1台あたり0.6m×2m）とします。
- ・周辺的环境と調和するように配慮します。
- ・設置台数：計164台程度

（都市公園利用実態調査報告書 国土交通省 平成20年3月に基づき算出）



ウ 水飲み

- ・園内に8ヶ所設置します。
- ・誰もが使いやすい製品とします。



車椅子の足元が入り、
弱い力でも開けられる
蛇口の水飲み

（写真はイメージです）

エ サイン

（公園内）

- ・公園入口付近には、公園施設の配置や経路を示す案内サインを設置します。
- ・案内サインはユニバーサルデザインに配慮したものとします。
- ・主要施設への誘導サインを園路内の経路途中に設置します。
- ・各施設には、必要に応じ施設名を表示したサインを設置します。特にトイレは、機能の表示（オストメイト・ベビーベッド・ベビーチェア）を明示します。

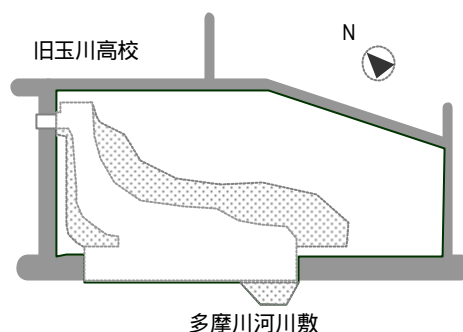
- ・災害時の誘導にも利用できるように工夫します。

(公園外)

- ・公園近隣駅(二子玉川駅、上野毛駅)に当該公園への案内サインを表示するよう、施設管理者に設置を要請します。
- ・車での来園者を公園駐車場に導く案内表示を公園近傍道路内に設置できるよう、道路管理者と協議します。

オ 時計

- ・エントランス広場、子ども広場、眺望広場の3ヶ所に設置します。
- ・太陽光発電・電波修正タイプとします。



カ トイレ

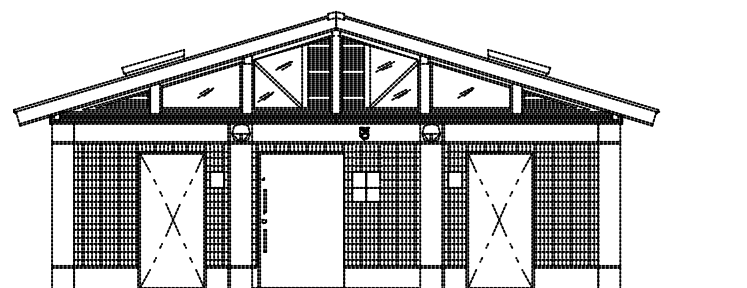
- ・配置：3ヶ所(都市公園におけるトイレの実態調査 建設省、造園施工管理(改訂25版 技術編 社団法人日本公園緑地協会)に基づき箇所数を設定)内1ヶ所はビジターセンター内に設置(15~16頁参照)

		ビジターセンター内トイレ	トイレ 1・2
男子用	大便器(ベビーチェア含む)	2	1
	小便器	2	3
	手洗い	2	2
女子用	大便器(ベビーチェア含む)	3	3
	手洗い	2	2
車椅子 使用者用	大便器(おツ替えシート、ベビーチェア)	1	1
	オストメイト	1	

- ・床面は濡れても滑りにくく、清掃が容易な仕上げとします。
- ・自然採光(トップライト等)や自然換気により、快適に利用できるようにします。
- ・バルブ類はいたずら防止のため壁面に埋め込み、洗浄は大便器はボタン式、小便器はセンサーによる自動洗浄式とします。
- ・車椅子使用者用はいたずら防止のため、夜間は施錠できるようにします。

トイレ

立面図



平面図

約8m



6 工事概算費用

総額：17億5千万円（消費税込み）

7 今後のスケジュール（予定）

平成23年度	敷地造成工事	維持運営に関する ワークショップなど
平成24年度	公園整備工事	
平成25年度		一部開園(平成25年春)
平成26年度		完 成(平成27年春)



お願い

（仮称）二子玉川公園の計画地内には、一部、一般の住宅地が含まれています。区では引き続き、居住されている方々や周辺にお住まいの方々の生活環境にも配慮しながら、整備を進めてまいります。皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。



編集・発行

世田谷区 生活拠点整備担当部 二子玉川施設整備課

住所 〒154 - 8504 世田谷区世田谷4 - 21 - 27

電話 03 - 5432 - 2513 FAX 03 - 5432 - 3107

ホームページ <http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00019688.html>